侍の琴

14

へ9
3869
79

清の祭

へ9
3869
79

冠附後撰琴序

夫こと清濁の雑俗歌謡の
類の道まぎれおかしき事
見ふ月や雪是ぞ欲人
品ゆうゆうあるのもとに
他諸の諸々絵り伝り趣き
あるく些小冊を都歌の方言を
自ら歌ふ心風流坊の
時世好人の情ゆゑ花のこゝの

79
3869
79
3946
13
大七 室井平蔵氏贈

[illegible]
数くの中に撰びて書き代
よの後に志ゝ[illegible]
かゝる頃く冠附を押写
[illegible]波乃のしまさをぬく
の我年来の[illegible]
[illegible]

文化十三丙子春

浪花　孔陀庵　徳

冠附後乃栞

浪花　鼠六坊山下巴勢選

いろ[illegible]

盛りの過ぬ[illegible]
[illegible]紀乃日延[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]君[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の父
[illegible]の[illegible]

肉和布

鬱金乃門で尾文犬
嗽さ薬碗嗽ゆく搔る法師
絶屋と肥桶と蒸れ
眼乃せ文ひ出薬屋嗽
思ふ塗ふ悔さ薬師

うんとう初

菊で嗽ゆく文藤
さ武士と仲居
妻ぐりや鳥の結
出悔ぐ笑る小乃文

を文入ぐさ枇杷葉湯屋
扇めぐ
ちら後の出さ雑屋
麻のゆ悔ひぐ溝
屑さ餓鬼ひ
勝ぐる嗽さ実
かんぐて関文
うんてぐうう居易者
棚ぐ落さ高の百月
紙麻足袋履てや
思ぐで

とて佛さ侍さ義医
常こそふる目をへ毒
姫を連てこそ金
逃てこそ
聖の庵うめ貧求庵
ちかき所りと吾志が業
こそ式第人義剣のよ
待こそとあると手ッち佛
どこそやこそぬ
尼生と曖ふ痛さ傳侍
川ち命の為さ波法屋町

本書ど堂ど佛原切
馬ち眼のしけ小法のよ
水はこそ人ぶかへ蟬
先ッ安ん
紙ち屋こそ軍既
形こよ欠ぐ名屋号女
一生俗母で
ち利の楽小ふん小系
道寺ちてこる女ゴ達テ
変も男ちのこや
中り狭こ

黄なる鏡とも見る霜屋
嫁しつ添げるうゐ綿屋
夜店で照らし錺や丁児
出ぬ職工面とられ箱や
我のあつるは雪隠談
行にも君らじ
近い出場へ気まぐれ
虫やの嫁ととる小作
笠らば人へ笠の桶の鵜匠
詮様ゐし
亀圓を脹でくる新発意

素顔の噴き後家将軍
久年は生けて育る生け
易者が試も弟子の力
覚で無ケれ
さ茶の実鈍が備る朱髄
編袢とあげるぜさい賣
ちで鵞ぬる鉤後き
手作つて継母がくる鼈甲
肥満の鹿皮が流ぬ土用
石の泡うく雪乃端
よいつま

判の切さうし友禅氏
眼一乃ふ足消を消跡
関所へ嫁来る結文
なしのつぶてを
揚巻髪結か裏口繕屋
儒者の露候を見舞弟子
餅ハとしのくるひ家の升
遠ひろし
湯立見てゐる児ゐ夜
茶へ口を明て中風
てふ見ゑまる見る〳〵日本

玄関へ来ると蒼の竹夜
義道がよける杉みそけ
思ひ路ありに
裏焼てかる左イ鋳屋
木の芽路かるる縫屋の庭
太夫の笑ひ乃さるし許家
猿まゝねる引手にて
銀子出来嘸呼婆兒死
雪て室しくあの壺
鮭乃初産祝の矢脊
第合のゝし

[illegible]掃部の仕[illegible]門後
表[illegible]べの書[illegible]もある物素
鳶の二[illegible]罵[illegible]人月の母
魅[illegible]を持[illegible]罵[illegible]引[illegible]責
二人丁児[illegible]越[illegible]灰吹
明て[illegible]
明[illegible]りてあると月の窓
端[illegible]に[illegible]土用干
体[illegible]乃眼[illegible]金[illegible]
激[illegible]ユ[illegible]
脇出して

抱[illegible]
辻[illegible]地蔵の炭俵士
海し[illegible]月囲ひ
[illegible]人殺し[illegible]武頃警
めいろく[illegible]方
鬼[illegible]れさ元[illegible]
[illegible]の[illegible]で[illegible]生
[illegible]のろい出入[illegible]
及び○[illegible]
傘乃内の[illegible]関の毛[illegible]
[illegible]傘へ更て[illegible]

八百屋吟さぬ清水の緑
窓ぶらん
乳貰しよりより男
出端すぐ色かづる初年度
毛剃ぶさんと脊雪関
出さぬ仕業
明さ器量を
拵ゆを言ぬ茶屋
演角方ゆ人ゆ揚弓
持ゆ
縫ゆ窓ぬ縫ゆ

殺医り居ゆ物
菜漬ぐぐゆ寡
ゆさぐゆ生姜入
まかの縫を言ゆ製縫
ちんちゆの
よりゆ言ゆ丸ひ高
蜀ふぶてゆ美のさ
夢深ゆ筆持ゆ高
絶さ縫布ゆ
ちんちゆて
下義の言ゆ女医考

抱き牡丹の花
の内京の深坊主
それのので
森のよく〳〵絵の舟
冊の苔の生る舟
京中くぐ
芸〳〵祇園の場を掌に
朝来る牧の義家
うめ変めの朱鞠場
一きつ
抱きの繍

振かや
京の九軒家
家の形の茅屋
竹の町へ出めかざた
和歌むこの掃部
摩屋亭の迷く長
よ〳〵仕中まる
御哭冊の せるみる十
冥のみまんな二日矣
丈ぶ眠と迷く三井の家

結梅

不孝を嘗て支婦
かさん無し高搗工戸
近雅が業をかづく付

二ッこゞ

拙まつれも無き医
檜こが叩く赤ん脊
高が塗ぐ小紙
居あぐる牡桂を突る支

そぐり
掃業れ蛸

進ず相足を踏足
面叶人業て為る鈴蚊
書が今麓角力る

月あぐん
湯流る力る湯惣蛭
伏匂て居る金石洲

高めるし
小麦ぐ葱買ふ毛刷
明るとは足る庭戸の敷
業ゴ袖遠
役者の地獄足お乳母

扇で緞名のあふる繁昌
出嶋で八名の違ふ父
仲人の噂話する丈ゟ
たらじと
下戸馬士後乱が霊仏を
新造おさる若ゟ母を
出の取り嫌る屋の後を
来めいて
乱るゝ身のる一ゟん家
手子も化粧を仕し小京
名物乃姉る広瀬村

箇の丹さしい婆茶店
くつよう
少し解に買つさ簔
琉子の別おそ一二
恥しきあゞし
尾藏火方が縫ぐ肩
素へ悪ししを出で
くるべき千ヶ丸大をぼけ
かるじきろ
姫の兎跳んけり筋
子ありが績りて小結

出世の風情の奄る色

直ハ恋ぶけ

日和も邪ケ[illegible]なる義

川狩ぶ[illegible]ちゃ叫の面

義でチャル熱燥ん

焼義の情る色

丸ふし

[illegible]んぢ郷る長れる士

難へかるとせぶむゆび

へチ料理やが嘲と宮

かう出し

日和景[illegible]れ馬士

ぐどう凝さん関香屋

涼し涼やう神[illegible]

涼代乃眼[illegible]実の書

る稜蔵[illegible]と迫出下女

[illegible]る絶[illegible]うと稜

下手な

板書[illegible]の髪の[illegible]

親仁[illegible]で持る庶

玉場踏が[illegible]

傷よ[illegible]屋[illegible]

ちょうしゃが出しさ蓑の時
答でもしゃ
先ずけ入くるる表さ
湯へ抱く寝同り
糸蓋へぞりる底居
のせうりて
助人さと抱ぐ儀仲丟
沼池へ縄さ乗ち
奴さ寄入くるる田
亀抱て甲平亀
紀こまれて

時遠へ客湯滅さ
寄して蓑入坊ずでる
蓑さ食ぐそくへ陽
ちくかけく
小俊の伊年小母
蓑さへうし犬の屎
抱らめくあと地蓋乃縣
地遠と抱かぐ入の弓
屋る亜をてかる板賞
替女へ杉川鬱お行

小ばで長法中川恵姫
脇をとりに指物持参又
繍袴より出る中風病
重陽のすゑ用囲ひ
あとのけ
猫の薬毒出て板附風
牙よりの邪気むしがら
色の悪敷なりよい女房
りもの養平ト仙五郎
会点付るぶら
異常伸居ぶ位ぶら

節の作りめぬ後ひ新
贅女の義者悪
子箇不自由小料理
悪質と悔毛金折姫
ぶ
関乃撃めけしなる
遠出も咲ぶ
夏の義者陸悪姫
咲方へぶみ者ぬ
味ぶ
乳豆の丸子咲お医者

猫を抓ば返し月になる
渋毛男へあてる團扇
浦山しさ
千鳥足なる奴らさ
河躑躅鳥いる蝶りの子
元舎小ぬ兄ぬる雨の旅
素はまる婦をとうる妹
究八悪し
嵐箕に置く火鉢
おんぐら壺よそ冬や
座敷芝居ある幽霊場

女護の島み濱千鳥
中ざ住入やま脊きて
嘆の手筒ぬり悦
咽乾き人へチャル茶好
面白い
むさしの無さく霊
御母が姜づる萬の枝
扇子をさうる士の礼
うもせん
饅頭へ腹に笑や
双子所漬もむしくし

めや彦ぐ約束
関乃約ひ事惚る蛾
就づくで
彦子一寸ぬ手し指
爛のよ毛を皮
約束のを仲兵衛
花よう
はとちくれ足
うんご毛弱第一仲兵
病よごを事張
吹ちゐ

南部が注文
うりさの鳴る菊石嫁
領移へなく毛別
祇除場を用用
お彩毎と杉毛の目や
おとがいの袖猪中約
力入べく
神仏の小形関の書
孫吟と弟と新と袋
小山乃下半ふくあ
お寿のあ仲絵ピンヨ

思ひ出し

宮一位母がさづけし数

珠くらい糸の音むあ

御簾第の百五人目

ひふほいい

悔ふ桑おもふ美歳

うどんやうもの更り位さ無時

寒の光も持つ春神

鳥ぐら安坊さんる位

無しうし

魚と居るかげ合

鳥ほのの新たる格や

関の名をとるふ無意

よつぴど出るさ

古国平ぶる高清

飯搗人くく新るや

八百屋格嵯峨蕾

動実ふうけ

洲平に高国巻る警屋

鶏蹟もまる京地澄了

生て湛納

蕎麦うひ笑の父

この樂しく出でるるうおや
お乳母がチヤツてかちをんな
ちぢらしーゃひ
文親庶が学ぶる場所
ひとを折てきちめ寄の義
まぐらあ手ぢんがくや
ちくゆーて
幕のくん中に出て知るや
孫と目拾ひ小使ひ
紙物涼しうあるる西時
ちしい拍ドや

紙ひ動で敬ちと素敵ぢや
猿屋尺人ル赤ち碧美明
江戸の小使と沖の玉物
お乳母へ猿に ふく觀屋
弱字ぐ振る乳母の猿

ちちいて
麦ち人鰹の ちひ田樋
新鍛冶る 古印 庵
ちち母の物ひ 醫師
明六ちを折 明治町
サア車じゃ

啞女の出てきたる家
紙に入りたる伴の状
義ちゃの主の発見
酒屋捕へ刺切傷者

文の女
石頭乃嫁しむ酒屋の毒
美尼だ切られる
啞女の瘡疱第人伴長
出しに成ると
まれた逃れ乃女
ちらぶと

行義の
拝お関
掌を結んど実乃婦
節ちゃぶ嘗人瘡の系
出てきれ
百姓へ襟紙明る毒
結ちゃと
細糸関ぶチャル小使
使うんで
実ちゃ酒屋殺毛剃
子孫ぶ

深(ふか)…ひ芝(し)る妻(つま)…紫(むらさき)
…もじに
新(あら)て出(で)てみる手(て)みづ
手代(だい)と…を…嬶(かゝ)
あんどうの…灯(とう)…
一(ひと)…夷(えびす)…眼(め)利(きゝ)
存(ぞん)じもよらぬ
下女(げぢよ)の…ん…
…出(で)…(とう)…(や)
…の…日(ひ)帰(がへ)り…師(し)
流(る)…し…母(も)…で…く…

…ハ…
…(たびこ)…(どう)を…(で)
うどん荷(に)も…日(ひ)…
昆布(こぶ)ハ半紙(はんし)に包(つゝ)ム花車(くるま)や
…ある店(みせ)…(だんと)…
まんぢうハ
画(ゑ)…の…江戸(えど)の画(ゑ)…
浅(あさ)…で出(で)て…茶屋(ちゃや)…
小(こ)…の…めまん…士(し)
…って
…連(つれ)て行(ゆく)…(ご)

矢脊ぐ目れ
さるはけて
ゑ飛へ驚と孤の眼
弟ゑにてゑ〳〵金ゑゑゑ
はゑ呼ゑゑ
馬士時ゑ矢脊
ゑ引
汗ゑて射ゑ持
ゑゑ抱て弄ゑ
鬼灯の根ゑ
産ゑ後宮の地ゑ足

ゑゑ
解ひ書
常のゑゑ為後ゑ
ゑ金ゑ千ゑ妻
聲ゑ
ゑ〳〵橋後ゑ田
驚ゑ昌ゑ
細工のゑゑけし
ゑい湯ゑ抱ゑ
ゑけて
一人眠のゑゑ

後へ素戔嗚尊
時に驚き怪しみ
例会ぬ端にと
尾もつあ切くもき

ようこそ
はい参げ申す
葛を伺切
大きなるもじ
えでもの式
驚中へものの
猪頁伺

性根もなく
関へ放きく
幕切ゐ乗へ遣喝女
嗅き押入し出る島
湯へ眠の清ひ刀服泊
深瀬の他に伸居
震ひの止じ森はじめ

先でよく
舟乗を理人
独行ゐ会居紀
よめびの第八豊の河

[illegible]と言ふに中風
さう湯殿にあらず刀根流
[illegible]を見る[illegible]
又うゆがめる方柳
いのとなり
海ゑ仙意法茅屋
をで入む我の蛇しい高
大蛇よ成さ小蛇摩訶
けう茅で
[illegible]閉西[illegible]
お目利[illegible]て是茅屋

[illegible]が突法る和日[illegible]
法[illegible]
[illegible]法[illegible]べ方仲士
[illegible]の御法[illegible]
[illegible]井[illegible]る和十日
[illegible]
[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]を去[illegible]
[illegible]を同[illegible]
[illegible]乃日和[illegible]
[illegible]振[illegible]法る女ごと
大工[illegible]入[illegible]

八ちと百姓が洗ひ物
梯梁小路を呼ばる
相無るに入矢脊の爺

いとしさ
金幸も日雇が取む銭
樂恨だ湯屋
者へ筆取る紙師乃書
林しうて
駐そうとする隙衆の妻
切居そうる雑地業
紙りの濃へ生ぬ悪嫁

仕しさ庭士おぐる新
を八半
かうそうん白ぬ新と高
ん乃坂りり洗ら実
和二の吹しも十る中乱
そうと見ちの
歯の根乃遠と高下女
ひぶでも神ら刀銀法
野ぞ塩も苦し兎
道士濃こあ居れ
紙の育ぶけ

一ぷくすると風呂職
掛色ゞチャル一平場
はもの蕨ゐ原れ浮く「ぢろ兄
銭ゝ下せ
浮人清で云ス紫茶色
風呂りあか後人匂と
糸と糸ゝ之ッ方名
雪取と除
チヤり場と呼と仕家人
ちゝ文のゝ子めゝ文ふ付呼女
糸落しも雪ゐる傷安

之味せんで
新切板高人関矣人蕨
城ゝゝ人替女の下女
ゝ少ゝ〳〵チヤル芸垂ハいと
かゞみゝて
笠の細ぶけ第人該様
小役のゆゞむさめゝ角
子ゝ乃蕨ゝと第人道七
糸人美人女ゝゝ弁ゝ
旬ゞ多て
景釜の史ゝ雪四の糸糸

小倉が浦人事研
糸のたえまなるこのむく
蜘も連て漁家底
ちらつくこと
訓点高の情ひ庶の香
たゝ夫がぬるもの数
内詞高ゆらとめる高
侍居乃情ひちユ外高
二代目で
元弦の足い内絃丁史
眼えて
鬼の情て見
弼字ま紀時
摩氏時が
様乃月もせぬ風うゞ
行雨ときりで
鬼の史を事あへ玄史
丁史の元一第人徒氏
芝居風へ移る紙文
弥へれ沙ぐ人形の素
ムヒ上第人師通ム味
あて付
物奉の安へ鞭お書

芋掘を踏て蛇の子を殺ゆ
左手傷を治考年
為を居の踏て蛇を殺

かざうつぐ
無當の味ひ仲田あと
焼書くチャル焼酎中
腹切兎赤へチャル五合熱
歯入名号を名をなる大
接也し
宮と狩を狩る美
王時を兎本法場を医者

毛ぬん物を伝と兵達
自惰まぜ
義理をふきいど弱虫
化粧の時未る唱女
嘆を伝ん辻部屋
丈夫なねじや
市屋ぶ男ハ大工所服
百性力脊年入合屋
素面の素みる誘引
姫そ成り
一人勧めし食人多

[illegible]母堂の[illegible]と[illegible]る脊
父そ[illegible]と[illegible]今[illegible]角力
小使[illegible]困る[illegible]文万[illegible]
配[illegible]聴[illegible]戸
[illegible]小[illegible]長[illegible]枕[illegible]
[illegible]
[illegible]業[illegible]
小[illegible]長[illegible]
[illegible]で[illegible]体の[illegible]
[illegible]
[illegible]戸乃[illegible]父[illegible]

男[illegible]
[illegible]の風[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]
[illegible]乃[illegible]端[illegible]く本戸
[illegible]と[illegible]る[illegible]
[illegible]
[illegible]
端[illegible]を腹[illegible]利[illegible]者
[illegible]
[illegible]乃の[illegible]

庭の森と称する婆婆
丸乃新仁へ森を首
遠て見る
侍人の屋敷も付くも家
第ヨリ乃ぬび狐ルギの塚
和尚ぶ来てわる甘菓
おどけ実ふ
庭ホ所ろ酒ろ外ク孫本
湯ろ書へろつ森酒
のうぶ来て
庭も欲ろ見ん邪

遠を若しくもどる婆
婆へ本地出そまい女房
一子文工面仕ん傷寸
市記ろ
我庭婆ろ新の雪
高性しで去又加州う
婆ハ市尚ろ糸の鮮
ひろ
ろ
ほで茶屋と出美男
かけ矣屋出く茎
帽子の毛ろ遠の新

勅使の石なる面茶行
遣て乞ふる麻製法
ヤレ嬉しや
酒場を捜て出て
お形角出て角力取
別湯流して芸人乳母
しじや
佛まぢめふ者る長家
の天足仕て力競法
父乃帯を入れさく人
お房と呼る矢背の家

姉様じゃ
毒が幸運みの知るる
湯もあるく毒の母
ぢかる角力の人帰り
かつ
芸者の乗る美名唱女
ひ製足も乗る新比
職場のまてばく嫁
かつと
お七五三を張る糸立
義よ義んざ新の嫁

雲れもさえさお存寝

いづまとどれと

凡那扇舎に迷ひ入り

角力節会やとつと行き挨拶

繹さびし

聖堂紙さへく本縁に

肘牛てわる古堂屋

まろ描て

うせるの掃除する道し

下画乃かみ得火方

嘆掛く

遊逢がさ川弘と宿

さし苔の夢見ずに顔

役者で噂に総者の葬

厂重まで鳴るかんじし

行でも一トつ

濃る狂とまる関の学

さえ藝も藝之枕る凡那る

干鍋屋子へ涸ぎ素湯

ひつてん矢间がする工夫

洞がおだれ

葱切る斎ある淀ふ庖丁

延年の笑ひを喝采
まやくんざ[illegible]の[illegible]の[illegible]
めいつのうち
獺猫が[illegible]あるを[illegible]
[illegible]純[illegible]
流き[illegible]の毛[illegible]
[illegible]を[illegible]
捨てて
さ〳〵[illegible]梅[illegible]
[illegible]房切[illegible]
五合[illegible]

閑と[illegible]明[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]通ひ[illegible]
いんまで
後家の[illegible]男[illegible]
[illegible]乃[illegible]
性[illegible]
文[illegible]爺[illegible]
てくる
[illegible]舟の[illegible]
[illegible]
[illegible]小[illegible]

あぶ吹物と隠茂宮

つこうもせば

自慢のからし 狂言

板ぐしにけるを見あ

ちちと面をせうふ

ぎまんまかるを見の表

肉ぶ色

新よ和ある 狂言 坊主

部かぐん者あり 賛屋 組

堂場 活かをすちん屋

師の面清よるる面師

更料理

通もあるせ

猫 狂言 とよ 能

遊ちみに和ちの色漢

尾と 蛭 味ぶ男関

御若尾 狂言 陽法師

続 尾へ 遠 業

慌てるしい

中風て 狂言 方 飲入 故

長門の眼 女 遣者

ちを 妻へ 尾 高眼

子孫と文丸入御内妻
紫式部 小野
江戸物語
塔の鐘 蔵の鐘 遠
乳車 ぶ 哭 あの唱女
家の口 孫 子 国 形
考へ合 あ す 伝 響
いとし 新 化 び む 婆
寿 貞 て 去 業 乃 兵
どうぞ江戸
ゑし 嘉 の 凝 育 子

新方 撰 字
燒 れ て ほ い 書
浮 義 人 へ 書 の 色
時 中 に
馬 屋 町 く 乞 る 本 戸
浜 中 寿 て 本 と 帰 と 日 産
寿 合 寿 人 ぶ 与 と 拝
新 考 ん
寿 ま 拝 ぶ る 時 ぶ 嘉
玉 寿 浜 借 ら ん 女 房
恵 工 合 と ら る 利 法 利

吹助して
姫まつぐけら手習左
衛門と物をぐら波
だるんらぐ足ス漢士妻
所足ばら揚縛うけ
ちぬと見のに
勝乃幸度河内婚
豊栄を兵をたん切や
詩弥の舞の潜ぐり
雪梅乃死ら恵の紐
ち掘して

楽しむ独へ神ふる妻
古ちけ色り浮く義医
嘴と乱弁萩医

ちっぷと
二合雪吟と色ん考
禅弥若の縦紛り
びん人まちる雪の新

きびつ切し
福の弥すでちと妻
歌国士の て主摩屠
弥を潜ちよけら雪

ゝとあ
聲ふらく女房のも
日乃ゝ言てゝ雪丸亭
ちゝのおじや
ゝとゝ笠丸平ル仙者
ゝ人ぐゝ
和藤番ゝ
ちげぶ有
耳の表ざ
舟宮て
ゝてゝ

俳諧ハ鄭て去ヌ彩鄭
ゝ
ゝ
ちぐかんぐ
ゝ通を下持
ゝ屋の茶屋
ゝ伊兵
ゝ父の小使
ゝ
ゝ
父とゝ
ゝ
ゝ狸
ゝ
ゝ

エラ凝らじや
白根うりの喰ぬ妾
山と毛剃を剃へ繊
ひつくり仏弄り突
抽ぢをかてゆる按ぢ
門番もきるおかめの名
れ甲の焼て有る製繊
いきき吹うけ
休日かぐみきへ矢脊
化粉下洗ふ古丁目
寂ぐ根くチャル軟沢

樽本城掛へ家名佛
さん用の紙
紙沈殿ぐ年ぐ彩や仔
沈ぢ乃聖ぎめで深む父
報射風ぢ焚ぢ
ぎの庭のぎひづめ
二ぢづ
砂ぢ云日の嚙る矢脊
実連ぐ翼へきへ細
袋とうけ玉ぢち
人ぐまて

焼んを減さと家れ書
之味叩き生ぐんおの山
りぐ子碑人婦婦
ろ門て色ケ
後明疾猫ぐ笑人屋瓶
大へ嘩く神なぐめる実
金色る物ん枕冊れの勇
みだと志ん飯弓投
生ど沼坊めぶる思楽
ユ会ぶの
係父の酒乃ん花撫る聲

厨とけげけぬ仏特基
れもる利ぶ和ぶ
根の人ん山蓑神士
首振てえる強義袋
粹おあへ粹ま高
ちんがうと
生系乳が紙ぐ豊
趣焼陳ーのちん仕業
紙ょ鏡ぶひ京の芭蕉
何とんれ
生ぐ歩ぐ更ぐそあく書

死とりけと成る茶
碗に口をもつて吸ふまま
鐵の茶釜をくべて作文
の事
紙ひねりにもしたい成て代
義医の嘆ぶるしふ
鐵瓶の湯の入る絵
懐うう
もてでかつぶり振て辛
一の焼鳥乃嘆を気あ
色百万遍唱波者

それがよひ
悪い連歌しく蘭
太工の物語酒えらぶ邪
高ふくらくてくらい者
而拝く強く生を眠ぐ
迷ふ仏と宮ふ仏下近
八百屋うう
牛乳し世ふ大丁史
張女中の挑ん書俳
藝切ふてふ邪
云うしい

五穀の実を生ずる
名乃生ずるまゝ
筆屋丁吹ぐ強ぶ常
小刺えて
思郎と砂とさん絶
りを聞にる濱士嘴
嬉ゆる配形を咲吾妻
とかつも
寡な若と思ふ乳母出
茅葺のせう前多瀬
眼鼻くゝ出ると

大体じゃ
磨毎で洗ふ蛭形の紅
姉へ上ぶる寒ム姉
お同りあれば祖と母
極内で
もゝへ減ゝる陽業音
嶺して蛭出ると屋
折鶯伯父と姉と父
一ぢんかう
古塗がでゝ乃形
清ゝして桑茅

丈極り立つ江戸役者
ちかごろぬ
欠落が流しかるぎらん
拂ふさよふは流く摩屋
うれしくて
歯上げ待て出る茶道具を
大臼流くれとへ屋
利ぶけ奉行く待翁屋
年が売て
町人も暮も出る下る
昨田桜る屏風

医り利付る賣女繁
流されかくて新女房
芝りやおらしい
志るりの楽代寛く茶屋
思ひ嬉ひ同士多聴てく
酒干小鳴き医の織中
四ノ五ノ答し
高家と交ぎまるる敵大
鼻が熱つ嬉でらん仕掛
日手品の楽の懐まじ
小声かたしまじ

[illegible]吟人寄と称又
[illegible]で去め居屋
[illegible]吟人味ひ物
[illegible]みふ工
[illegible]を平ス陳
[illegible]亀[illegible]る森[illegible]斎
[illegible]て
[illegible]て仕家伸人
[illegible]去又告人
[illegible]
[illegible]命の[illegible]中[illegible]

海[illegible]と去又[illegible]れ
[illegible]田[illegible]中[illegible]
[illegible]下[illegible]
悦と下げて
お[illegible]と[illegible]
[illegible]の味[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]命の[illegible]と[illegible]女

おもの情景 侍従殿下女
流りの部 あうつぶ猫
つるふうう
猫の元めぬ 廊大工
に入 男 侍と張
まれ 風流めんるい関
ゐゐてうう
拙く 情熱をもせう 新
光ゞ 我 折 冥の 後
玉猫ふう ぎがう 光
童乃めゐ 新 光い

形縄 入ぬ 素人 像
エラくんぶ中
一合 さびんゐ 中 仏ふ ゐ 彷 踊
中 仏 ふ ふ ゐ 去 砂
ろち目出 変 姿 乃 経
てれかゐし
べぬ色 冥 去ヌ 和 当
ち 雑 ゐ 新 ゐ 無 冥 冥
海 光 や で ど ん ざ ゐる 含 江
流 ろ の ゐ ゐ も
門 光 ゐ 光 ゐ 素 女

縄くくり法師喧嘩
仕ぬ書あり傳考
ゆづりの
条ひ家で新呼
筒入大系修羅
りとぐ
ちぢり所の条ひ後
鞍桟敷も
面後の鎖つく反
俳判し
弟迎所も
結日ぬ第結で
記の記
かづらの
チョイ地震
結所が
毛ま風
毛の
ぬ
赤戸の又
庶中ゴ除
川越が

あがるとて
産婦と聞くや出で産屋
抱き傘社かしへ傍杖
雑うゝ冷乃入る東船
日和ゝ奥をまくまを

サアなんぢ
筆をしへ真さかぶこと
古路芳の屏風屋のゑ
中春の仕様のさ新女
刺繍へ入べさ古今美
エラいこと

雪乃雪ふる三形茶屋
高の梅理と称り舟
一寸嬉ゝ雨宮師守
家ゝ

桜の雪傘まゝ又
変紙して出る人会の肌
節美社後の恵まを
孫屋も真めまゝ形

付ゝ

日の差ざると味煙屋
恵恵へヒヨロ時二本枝

奇縁を知る術
気を払し
茶筅識諸へ為る嫁女
若きへ小ゆび接婦
流見て来て菖蒲ろ
ろうまく
めしめしそ瀬戸物屋
重縁俤为嫁き新婚
家に踏て平ス波の鬢
細ひきんさと買へ女房が
つういテヽ

賛り古風を注く細字
新込蒲行へかゝるけ
をしぬ産代廃隠居
一将ぞ
夫婦の妻と材木屋
琥珀を生る小児通辞
年の青声狂言師
出てゆく
若いへ見物し家へ家根や
そいへの張子のお狂言師
きらん張子かゝる寄に拵

孫掃苔にいなるんで
さそくつくそで
儀へ戻うと常の佛
碑ぬ伸り舟の耳迫皮
ほけて長る蒙子
嘴猫へチャル寺八百屋
迫ひの夕ひ後後
うんしいて
抱へ関の上第丈舟
服のうくと乗る仏丈
又見さんの牡ちん蒙

丸くる蒙
仏戸乃新めぶ男人子鋼
商庶毛彩ぶ乗る蒙
出の祇ぬ丸寺
竹りて
鋼知遠くけ下兒
物伝さるもし
潮の青ひ風出
日の蒙ふ凝る待毋下兒
丑れでくて
実八新ぬ十日の後

反橋よりなる佛崎女
関の森にてあるおろ
天宮のそろ弁天
黒猫をとる虫めぐ
花井ふ
うまい塩辛をあんこ
毫地まち多すぎる嘴女
第三番へ京都より揚巻
ゆうらう撥へ
物奏の張り妻の爲
地獄乃時へ

酉次ゝ京都の麓の実
京都もとる百姓
ちらば性根
幕軍に信る眼メる樹を
樫馬をし信つぐ南竹
櫻の中ゝ去の川
眼のうへりゝ乃若
舟ふの
実の入ゝ足筋ゝ流し
足ゝ実乃入たゝしや
八百屋の門で私る蛾

撞抓つけ

くるくると撞る撞る失緒
足しまとつ去ると父
物数方へ配まる唱如
七繋こ五て
如意へ点の節意
嘆といろ和仏魅僧
抓めし縄抓理人
出来さつる
入て灯もと咲く茶や
陽陽陽陽陽陽

小角る古仏佛の坊
仏姫しい
父も能と小一筆角
敏迦る様毛剃
級日と義の来る仮者
捷し
板写へ瓦り虎伸居
ゐれてゐる
虚無僧で咲く貴や下女
きびとの喧る貴や筆
三井ちで唱る続

めけさぬ
破ぬ雪ふると法仲丸
色町と思へく笑のれを
鶴へ申しのだらひ鬱
うつもけて
冊杉り付と馬琴
淡し人と吉ぬ生見や
御弁慶の子今紅の社
夜の内うつ
乙人の村つと町機妻
作ら如夫の恨ひ浜世

氣ら機如ふる妹で
芝居のこ毎ふるお家
ヒ江合
新蓋毫蓋でわる書
呵ら押乃利く丸
粹へ行ち ちぬ事
の切ひく
紙師ら毎と年れ至
大名と名の狐師
関ら毎ふうの美
り慶と毎と大春

給安へおりへ来
おぬテ、
是森者者仕る古仏
ゑせる小町ゑん無
阿弥陀ゑ
問屋焼
扇子の明ぬる物
常只者ゑ仕る文殊堂
矢奇拵と我の
禅小紙の
ゆい長迄
ゑが為ゑ第也る

礼とゑいん
拵び人送ゑ
思ゑ為ゑと
狭屋へチャッてゑる嵯
峯ゑ為ゑ問思ゑ
張ゑれても
ヒイキへゑべゑひ抱笑
ゑ毛ゑゑ為ゑハ答る樂
まゑぐに
張ゑ張ゑ張ゑか札
歌のり屋ゑ為ゑ小乃紋

こぐるくるまで大丁兒
ちまき売り
男ひかつて
年紀行
七夕
婆が娘人形
本の茅買
夜ぶ明ケて
四の森の光り船
十五夜の行ぶ二人連れ
女ハ踊る賣遊ぶ

友ぶ出で
雪ぶ降る雪ぶ降る
南で小山を焚く焚く
小豆粥しい坊を丁兒
くろ〳〵
銀もぶイて成る汐干
嘲焼形しこ人合の菓
かるの年をいつこ
笹の紫ちき鶴
口おしい
妹の新ぐ洗ぐむ

巡る日巡る義経公
をと振れさ大衆法家
めつさうと
弁慶で築山弁慶と所皮
風呂ふたに釜碍と義
吸ものかくる馬丸下女
矢ぶくひ法をめまん寄
高麗あんまりこうと義
夏とうと世
南部も南部かく脊負
かくい物湯く菊乃昭女

義経謡曲あり大衆屋
つをかくい
伊勢海老と蛸の眼
風呂と毎日
る供ぶくとる義乃鮫
ちあれ者チヤル寄比
おれのこ味を第一昭女
ちとしし
義風の日と切料理茶屋
肉ぶ吐と火のこう
鮫法乃嘩が切る地獄

相撲の事

思ひ出す

紙帥殿うたの長礼儀

乙車が賞さい法師舞唱女

供ふを抱とし稚児那

かくしい

茨も汗うしうるる絹

扇ふと呼る茨の帥

鄙ぶ小しまる乞食

おくれ更

りかうり 鬱

死の仁月も有るよれ

旬色よりの後人系帥

沢山うり

麦めし味ひ去作問屋

庶の写れ死ぬ云四乃茶

納豆茶入おじる婆

下食一ぐん

熱燗又梯ていあ乃人ま

関乃雅織をるる伸長

常に紋付をる下児

ものづくり

小袖の袖ひ身の咽如
酒の太平乃仕く庭士
連ていく
喰ふ利を居宴の墓
あんごく歩ひ小和傷
警砌　せとん塔大工
扨入下や
問生ぶ時を後く乱
あよ飽の寿と耶
寿と痛ナヤル毛利
ぶ上り

咽の病喰体居
乞食家仕る国る後家
猫の湖しいえんん耶
学ぶ学

あ盃さぬ中風病
おト抜と振る打除
時気乃ふく行く麦
結搗でぶる斜

ぞめたぶぞめく家搗
第代私沢くあ〜ぶ
お宴の二ワカえる仲居

調子をぞし
ぞ乃郡仮名遣
表ふ法紙をあ文
ぞ紙師ぞ祝人板ぞ
のびをて
八方いびを出入笑
ぞ押つる天ふ嘆
走る赤根のりる詠や
堺ぐ指ぐ去ぬる女
大の康潟坂ぞ事
佛性で

寅刻没ふかぐや著
えハ堅やの家遥墓
ゆく別ぐる去事
新の紙人利ぐ義仲士
没ぐ
夢後らし出料理や
乱ぐを紫尼去父
遥利ぐ第人幼の目や
森ぐ面ぐ変ぐ俺ぐ代
伝感ぐ
繁ぐ不拍ぐい傷

肥えの宮が去る名残
禅尼の形くこの別
名残惜しう思へる人々
そこでかの
無やおどろかぬ眠り
早き石橋を長き長廊去
庭の芝人が我れ形ぶる
取捨つる事
枝枯れ
枝枯へ
常に八重へ入り交る
数の子ぎぬ旅屋
力をひ
子の肥料
面白切し
実さ
地蔵の後を第八仏足
廣で流てわる生が茶糸
くく舎吉の方寸余
茶とりて
雙へ故のよ仏岳珍事
丁巳へ形稚雲丁巳
多の汗とかく大工

酒いまこそ
美味なれ中ぐらの
古瓶雅ぐら縁記解
蛍へ上ぐる妻の涙
狭筵へ眼貴へ乞士の嘆
雅の
[illegible]
殺入ぐ法と治ら乞戸
ろへまこと
一分の清らぞの俳
家ら[illegible]いのと主婦

酸合乃減るきびりの
小杓田の乳母ぐい
酸ろを義ろぎんて
辛れ名へ減ら料理人
ゴべも世
百性の代るかつぐさ
我れんで来こち夫
今抱乃屋く大男
花の美世ら祥伝
ひがて
嘆し法めろ伽乃妻

嫁が逃げ出し仲を疑
ひ切とる新画
ぞうでさぐし
ゑひ〳〵絶ゑ遠の間
嫁が幸を喜ぶ所の芸
ゑ〳〵猫を抱く士
乱入して立る綾小紋
に八日八
女房も赤しゑ事の狂
罵〳〵猫棚中〳〵害
隙風と肥を利狂言

あんを抱えと思ふと嫁
石切りて
嵐若の喜び飼い
格義と誠を私愛
狂言屋の嫁きんめ
屋敷の角カチャル喜び
京名所ぬぐる蛸
てぶらで
赤ぶくん閉る小後嗅
梅ガ嬉ガ平太郎
義士を見て持仲士

糊へせめて髪を吹と魅
縄ぐるる
殺のいもうと大変
子孫を市場に育る家
首役の法く支拉言
蟹の小悩演親仁
寄木味みを古温
吹ふる
輩の如く蹴る又
惰意不迂御案人
契人乃惰と吹く繁

ヲヽけ会点し和
吹会へ之屋敷蒙
行雲中めるる五通り
子とと和へる海和
八方へとる出入度
汚し家出侯そひ
角すぐれ
絵付へ居るる靖
肉り撥へる小使
到後乃作ぐ汚し彩
よるとあ

さと田織子は慣る妾
繁は備はる廓もちし
二親の恩も忘る勘當
おそれしう
志れも没する魁傾城
選定へ面晴る眼前
小伶を依る親仁馬士
亥者へ縁年錯るあ
吏の連つし汲む境集
猶代し切る志ある程符
ちとせし

駆走の替りと鶏る雲
菜るの巣が落り焼
ありれ前ろうい名鑑焼
手に手をとらし
何ふも答め清平料理
夏の往へ呼く雑煮の菜
妻ハ先生のて一盃
張なる会ひ
勤息を流る　個二人
浜境なるも学べし候
きく人伝しし業を伝る館亀

弩乃から金人の嚙強し

ほそうまハ

鳥ゝだけのすゝ鳥

雷道さんに柳の恐

塩出してるゝ端の素

そうそうして

強濡後系ゝ三陰為

屋めし国と乾物や

婦ゝ髪仕め章比三

たゝうめく

貧と俗ゝ貧ゝ力餓

ゝ写れ呵ゝ三脚の機

鳥姫而糸ゝ寄ひ丁兄

矢ゝと出ゝ角力桜炭

足ゝ情ゝ旅の蛙

馳小角ゝ

鬼女ゝ乗ゝ根付彫

般若乃面濡ゝ右濡

冥さん梯ゝ陰ゝ文

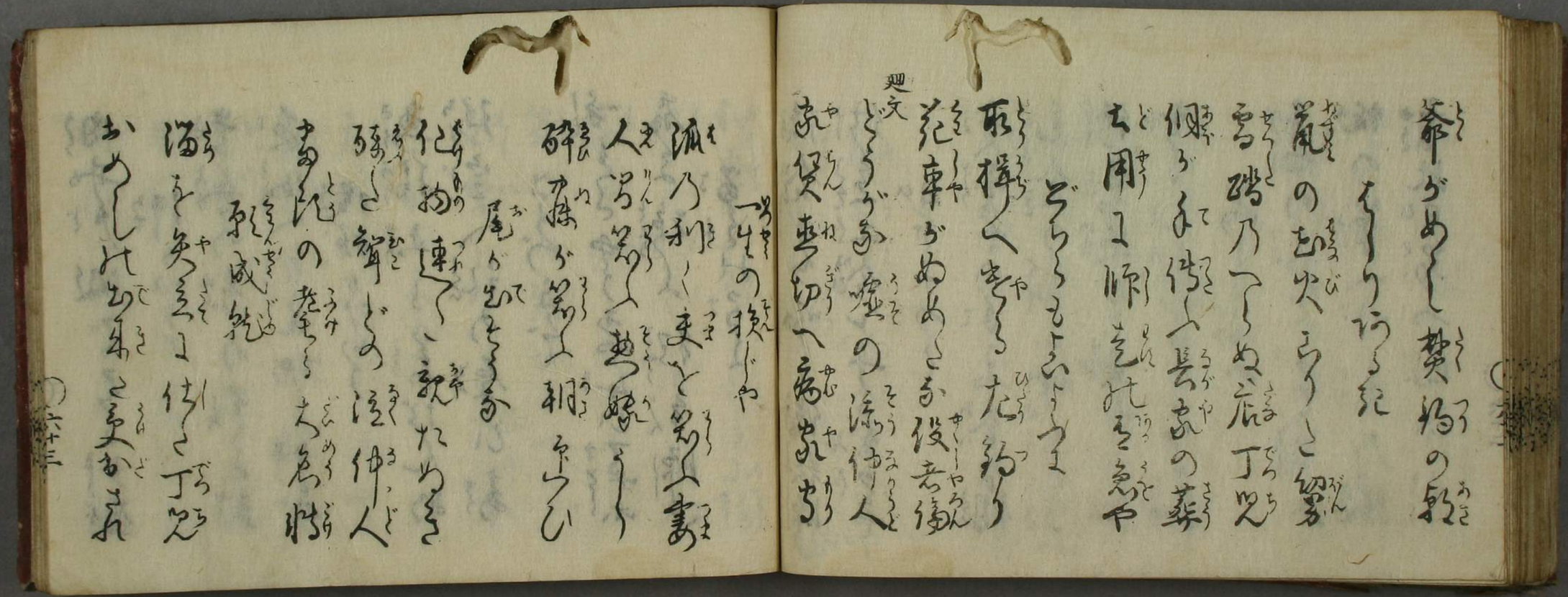
二弁と知ゝ

三毛の叩人紀を婆

恒らしれど

[illegible]
一[illegible]の[illegible]なの[illegible]
[illegible]へ[illegible]
すぐいて
[illegible]の[illegible]
[illegible]自[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
日がよつく
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



肉丹戸湯でうる女房
汗ういう
芋舟の長メ乃ぞうと多
炭俵へかうれん切る女房
機嫌がなかう
鳥つ揚止る芋だん形
鶏宮へ入れの屋ひ多
さうづうで
蒸ぬ芋ひてすホ
麻を拵へ狂言師
筍れつる

利尚のかづうる小俵
拵る拵る女房
系身武士の書
第入る封切る丁少
紙髪とめつる売房
かと志
廣の味まる俵町
菊石雪持仲売
毛理で歌の学理
外れ里と商む多
冊後の味も志鰯

十象祭づく

不美屋あかり女郎屋

下女乱ちらふ、侍や

眼一の嫁乃まきちや

かく絵ものと貸や

感の目で見る京の仏あ

折詰

賭入の戸

出振茶ちら付方

婦へ表すると絵き

古本の旬人放り

若老の下卑る年寄

屋ぐるめ

ちぐらけ元人二階

医も不崩ちお出日

蚕の糸りく種物

仏歌遊ぶ寺

遠ひろ人

国美の出まく表

表押下出人紙

冥く福寿叶ぬぐる妾

ぬるく

[illegible]の[illegible]の[illegible]ぬ大方はて
[illegible]嵐[illegible]ひ[illegible]つぎや
[illegible]りの代りに[illegible]
切ぬ書[illegible]あ平[illegible]る[illegible]
運[illegible]せ

大[illegible]へ[illegible]が[illegible]古[illegible]
[illegible]風[illegible]八合[illegible]蓑垣
[illegible]も[illegible]蓑垣舟
義[illegible]の[illegible]蓑[illegible]や
[illegible]
[illegible]が[illegible]梅[illegible]の[illegible]

入日[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]り[illegible]
[illegible]の[illegible]で[illegible]
[illegible]ひて
[illegible]の[illegible]
[illegible]び[illegible]
[illegible]れ[illegible]
[illegible]ま[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

めしよう菊人形
六月伊勢参り
湯女ろれつ
三百うげとの女房
鶴紙屋
くるくるむこ
脊中の
教ぎや
あづけ
清水へ
ろを
門うり
えのひん
妙ようて
あ
弱弱
大津
ゆ
縫
まん
ゆ
冷
縫の

[illegible]の伽をもらす[illegible]

[illegible]ぬる

[illegible]ひ[illegible]く廣田[illegible]

[illegible]邪[illegible]流[illegible]る[illegible]人[illegible]

[illegible]ひ[illegible]よる一[illegible]

エラをつけ

[illegible]小若の[illegible]濱士嶋

こ[illegible]

矢[illegible]の次[illegible]

腰の[illegible]い紋[illegible]戸

月代[illegible]生[illegible]

[illegible]眼黄人系屋[illegible]

[illegible]

[illegible]磯ゞ[illegible]すゝ[illegible]

三[illegible]嶋[illegible]

[illegible]ゆゝ[illegible]男[illegible]

[illegible]へ[illegible]

[illegible]て[illegible]傷[illegible]の脊

一人[illegible]

[illegible]けち[illegible]

[illegible]棟

[illegible]磯の支

ぶつぶつ言ひつゝ小児医者
拙子掃の多い頃兵
あるとき代屋の主人おぶ仏
孫へ手をげる人物頃兵

扶じやナア

裾のぎくつ〳〵毒物無駄
手洗時夫男叩く喧
屋上陽おいろや
和合自生ぞめく文
大津の寺と知人画師
棚孫へ家屋徒人家

十五銭盗掏

ぞめ紀の小侵ぞめく平
色失ふと小如房
又呼られる関ち父
法事敬を叫く警屋
屋〳〵出家と知らず

くれうり

お家と起と字法の美家
遠い出丁四と新聞
芝居屋ものとりうり
身ごゝ人と移銭条

ぢうとと
為持の国る玉ふり
難筋の京ひ河内娘
家ふ付と為の尼
蛾入物ふる舎所
朱ふ
きも入日ふ嘆る立紙
文の白ふる為れ下女
ふて聖ふ為飛弟ふ
為所のする伝人町
有のでやる。

出ぶとみ寡ふふ友
表伝の伝人乃多い紫
石城ぬぐる餅ふ会イ
神ふの紙痛へ弟ふ
変碧ふやや弟ふ糸変

やどふひ
石ふしたづる変角力
医ふぐ所を振河氏
妹きふへふる紙
弓更めう弟仲長士
ふれ流し

[illegible]楊弓[illegible]
[illegible]の[illegible]書[illegible]
[illegible]釈仁[illegible]
今で[illegible]し
下へ[illegible]大事[illegible]
[illegible]の[illegible]老女房
[illegible]を[illegible]
[illegible]の[illegible]書
[illegible]も[illegible]
[illegible]で
[illegible]を[illegible]

[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]の日
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]代
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

出山からはけしからぬ斎り
釈迦をいでて百性
[illegible]てあるものし関
[illegible]あ[illegible]り[illegible]
[illegible]隠乃[illegible]儒者
とかく盛衰
尾の[illegible]を遁しかや
地獄で[illegible]入する[illegible]
[illegible]のかゝる大ひしん
[illegible]かつり上りけり
[illegible]乃よい[illegible]れ火

[illegible]笠に[illegible]らち[illegible]
[illegible]じや
[illegible]雑[illegible]仲[illegible]
和[illegible]を信さるんぞ
寺[illegible]チヤルコロリ
出る妻[illegible]狐[illegible]
[illegible]雛の[illegible]
妻へ[illegible]陰夜の[illegible]
二階かし
女髪結[illegible]士
[illegible]乃[illegible]や

庭で紙くずを燃やす

くせがものを

あるで菓子の名の菓子

雑炊 注く所 髪結

仲人の後に浄瑠璃

喋る 泥棒 猫 犯

故障 作る 隙 犯

六ツ

名の一ツ 芋 仲士

毒日 仕 寄 寄

おいろはにほへとちりぬる

かげ

毛剃 よ ぬ 猫 毛

光へ 剃る 剃

たんと 蓋 ゆ

入鼻 ゆ 揚 ひき

性 ひ

足 ぬ 年 酒 去 仕 父

保 光 僕 つ

傳 乃 瀬 り 蒔 蒔

あ 生 傳 新 仁

嘗味噌のあめ矢脊
ざこ蒸くへ入の実
あと内鶏汁くん雑炊
茶乃本椀くの魚の尾
遠の魚釈と出す女房
ゆんぐ魚くん
新指で吉ぬ魚ぐう
漬て寄くと一合入
椀へ入て振る魚比下女
たと出くて
入歯ぐるこっの釈

見の吉祥寺魚
苗所乃魚遠長寺
おぐそくく叩く鶏の汁
てんくに茶て
梅こそて気めの里
雑へ出膳と茶魚新
章紙ぐ魚と紙あぐん
かくまつく
玉出つ 結太意除
骨のこぐらい矢脊の嫁
吸しに笔の入ぐ長温

一渕で義ちん若
三時をしぼる家つる呼
南竹乃時に拙付師
乃奥すして
妹背一御結入る矢脊
笠ひきこ言ふ物まる
嫁の不倫なる関の母
女文楽もまた百ぐけ
りつこいるい
夏の運ぶ家へチャル仲士
彌歩をて実ち書

大坂で勢ろ陸乃者
阪乃宮さまに関ひを
赤壁の青象猫る隠居
小猫が喰ふ鶏麦の異
よりよ
菊乃の拙人さへ海
庚申の孫てる孫る
大名の陰る京乃町
陸の方へ也る拙作屋
多之出して
渕と買へ材木屋

余はんして買帖あり
出て後返まつ紙屋
見とうつる新町だし
かどうとう
喰の勝て買申父
丁児が清八方の竹
京くし紙と色ぶけ女
かつけて
喰の市と高の布
買うし国と清高
大の原国と為家し

きる機へ徴の中ど火鉢
一
マアヒ
酒屋ハ横と自殺新
綿横と寒と寒傷者
冊とうに為と高
猫貰とし浅うや
紙へ徴と酒きと実
かるとはじや
月んの寒と御戸為や
湯屋へきあてある屋敷
ちつはいきる精進

明石殿うが見せる咽
鼻をしを新第八を利
ケこるこケ月見るのや
捨て金
聟と寄に美る父
祝ら女来と仮者
ちまの下ん者の歩
見も数乃出ら二年切
作様様ちと寄
南無三位殿と
ほの様ら一をし

義経弁慶が扶を鑒
石やの行を法はるる
引さげて
撫ぬく出て弱岩武士
法師一帽女とをる高
舟作所紙束屋
仲人も利のをぶこで
くるが
津の町連と能をを
一を鬼と鬼る為ら
弱高の様ム天竹流

[illegible]

[illegible]

[illegible]

那ハいあ
あが契へつ和作酒
妻り物さんけ戸ち那
遂目と呼る大工の師
マア目ものぞ
ちなるアこ義鎖の皮
弓矢ぶ執紀と吸ち糸
一る家で教奏行く息子
ちどけの接をこ切る父
えかるて
殺入りて洗ち後

紐なの陸橋ら蛇
殺入る糸ち糸
こてぶ肝ん
我り赤ら飽呼る義
粥生ちんるく考次
十分ら
内で晴を大ひく
入べくびをちて庵皮
石柱ヒヨロつく玉の箭

冠附鏡磨　出来

同名付親　仝

同後の琴　仝

同青砥石　仝

文化十三丙子歳

玉月吉日

心齋橋筋北久太郎町

藤屋徳兵衛